

御用柿舟の旗じるしについて

(出典は不明ですが下記は山本家よりお預かりした資料です)

55

かへの町かど

御用柿というのは「お上の御用」に差し上げる別製の柿」という尊敬の意味をふくめたものであった。河戸柿とも言った。

河戸あたりで良質の柿が生産

柿けずりは周辺農家の婦女の

江戸時代四日市村河戸(現安佐北区亀山一丁目)で生産された西条柿は、名品として珍重された。このため広島藩が江戸城への献上品として「御用柿」に指定されたことからさらにその名を高めた。

季節になると毎年河戸に「御柿屋」と称する役所を設け、藩の役人が常駐して集荷、精選、輸送のことをつかさどった。

集荷した柿は、役人が一々検査のうえ串柿と枝柿、切柿の三種に区別し、それぞれつがをそろえて仕立てた。

御用柿



御用柿舟の旗じるし

されるようになったのは、北方に福王寺山が東西にそびえ北風を防いだこと、瀬戸内海から太田川の上を吹き上げてくる南風(まじ)は、福王寺山に突き当

たり、上空に長く滞留し、前方を流れる太田川の水温と調和しているから、と古老たちは伝え

ずさんだ「柿むぎ歌」はせつせつと哀歌を今に呼び起こして

一、富士の高嶺と河戸の柿は

誰がつけたか日本一

一、習うてお帰りの御柿節を柿のご用に来たほどに

(以下省略)

この歌は次第に発展して、この地方の「夜なべ歌」に広く歌われるようになった。こうして出来上がった献上柿は、太田川舟に積み込まれ広島へ下った。積み荷が藩の御用柿であることを示すため、写真のような、旗じるしを積み荷の上に立てた。この旗じるしが、今も同所の旧家、山本克荘氏宅



に大切に保存されている。貴重な証言者(物)である。長さ六十一呎、幅十一呎の木板に「御勘定所御用柿」と記し、横線三本の「三つ引向」の紋が入っている。この標識は広島藩の藩用船に用いたものである。ちなみに現在の広島市の市章は、この三つ引向にヒントを得て、川の町広島を曲線で描いたものである。



御用柿舟の旗じるし



用途定かでないも嘉永7年虎極月と記されている。木製の蓋？若しくは柿の加工に使ったまな板かも

嘉永7年（1854）3月3日日米和親条約が横浜で締結～参考まで



← 山本家の樹齢200年を超えると思われる柿の木